



シリーズ現代の天文学別巻 天文学辞典

岡村定矩 代表編者

日本評論社 定価6,500円+税 539頁

辞典
お薦め度
4
☆☆☆☆★

月報の書評は久しぶりだ。しかも辞典の書評となると、これまたまれなことである。いろいろなメールの合間に、何も考えずに反射的に引き受けたけど、本が届いて頭を抱えた。ふつうの本の書評なら、どんなに分厚くても全部読み通すが、辞典となると、さすがになあ。そう言えば、昔、別の辞典の書評をしたときも、全読みはできなかった。ぼくみたいに最初っから全読を放棄すれどもかく、マジメな人はイヤがるだろう。それでお鉢が回ってきたのかしらん(?)。

〈現代の天文学シリーズ〉本編のほうは手伝ったが、辞典はタッチしていないので、さてさて、どんなものができあがったんだろう。

とりあえず、とーぜん、「降着円盤」の項をチェック。ふむふむ、1ページぐらいあってもいいぐらいだけど(笑)、分量的にはほかの項目とのバランスもほどほどによく、内容的にも過不足なく書いてあるなあ。ぼくが書いても同じようなものになるだろう。まずは及第点である。もっとも、すぐ後にあった「降着トーラス」の項目も目に入ったが、ええっ、降着トーラスが低温で光学的に厚い物質!? こっちはマチガイだなあ。

次は、モチロン、「宇宙ジェット」の項だ。うーん、活動銀河のジェットについては、この説明でいいけど、マイクロクェーサーのジェットとかすっぽり抜け落ちてる(「ジェット」の項で少し触れてあるが)。また、せめてジェットがプラズマガスでできている、ぐらいは書いて欲しかった。こっちはかろうじて合格だ。…執筆した人、イヤだろうなあ(笑)。まあ、ぼくに書評がきた段階で諦めてもらうしかないけど。

こんな感じで書いていると、月報まるまる1号使っても終わらないので、後は総評としよう。

各項目の分量や内容は、ところどころ説明不足の感もあるが、おおむね適切だと思う。また言葉(文章)だけでなく、必要に応じて簡単な数式を入れたり、適宜、説明図を挿入して理解の助けをしている。これも適切であろう。

また、本辞典の目的の一つとして、学術用語の標準化(標準用語の選定)が挙げられている。『文部省 学術用語集 天文学編 増補版』が出版されたのが1994年の昔になる。それ以降も天文学の辞典は何冊も出ていて、ぼくでさえ一冊上梓したぐらいだが、日本語表記の標準化まで視野に入れたモノはない。これは学会的なオーソライズがないとできないことで、20年ぶりぐらいにその作業が行われたという点で、本書は特筆に値する。

以上、ざっくり言って、85-90点ぐらいかな。大学でも最近では秀・優・良・可・不可ではなく、点数を付けさせられる。うち(大阪教育大学)では、90点以上が秀である。〈シリーズ〉本編は玉石混淆で問題も多いが、本辞典が〈シリーズ〉随一に、有用なものになるかもしれない。

項目数約3,000。辞典として十分な項目数である。値段が高いのは致し方ないが、540ページに現代天文学の主要用語がビッシリ詰まっっていて、非常に重宝すると思う。ぼくもさっそく机脇の書棚に並べた。個人はともかく、図書館や研究室などでは常備して欲しい。あ、うち(研究室)でも買わなくっちゃ。

福江 純(大阪教育大学)